

第2回岐阜県慢性腎臓病対策推進協議会 議事要旨

1 日時 令和2年3月17日(火) 14時～15時30分

2 場所 OKB ふれあい会館 409会議室

3 参加者 11名

	所属	氏名	役割	備考
1	岐阜県総合医療センター	村田 一知朗	日本腎臓病協会慢性腎臓病対策部 会岐阜代表	
2	岐阜県医師会	河合 直樹	岐阜県医師会	
3	岐阜大学医学部附属病院	吉田 学郎	腎臓病専門医	
4	岐阜市民病院	高橋 浩毅	腎臓病専門医	欠席
5	岐阜大学大学院	矢部 大介	岐阜県糖尿病対策推進協議会	代理
6	岐阜県医師会	平野 良尚	かかりつけ医代表	
7	岐阜県薬剤師会	井深 宏和	薬剤師代表	
8	中濃厚生病院	廣瀬 恭子	病院看護師代表	
9	全国健康保険協会岐阜支部	後藤 直美	医療保険者代表	
10	下呂市	栃井 久美	市町村保健師代表	
11	中津川市	糸井 晃美	市町村管理栄養士代表	
12	飛騨保健所	坂下 みずほ	保健所代表	

4 事務局

1	岐阜県健康福祉部	赤尾 典子
2	保健医療課健康推進室	牧村 義和
3		森 千夏
4		小川 麻里子

■挨拶（岐阜県健康福祉部保健医療課健康推進室長）

■議事

- (1) 岐阜県の慢性腎臓病対策の方針について
保健指導介入による成果と課題の共有
- (2) 令和2年度の事業計画について

(1) 岐阜県の慢性腎臓病対策の方針について

- ・「特定健診を機会として保健指導及び受診勧奨の実施」と「かかりつけ医と腎臓病専門医とが連携する仕組みづくり」の2本を柱として、岐阜県のCKD対策を進めていくことの合意。

① 「特定健診を機会として保健指導及び受診勧奨の実施」について

- ・糖尿病性腎症重症化予防プログラムは、県の予算があり、全国的にも一斉に取り組むこととなっている。岐阜県の糖尿病対策も先進的に取り組んでいるが、CKD対策はそこまで到達していない。
- ・糖尿病重症化予防を参考に、整合性をとりながら、CKD対策の流れを作るとよい。
- ・聖マリアンナ医科大学木村健次郎先生の研究成果を参考に、糖尿病性腎症重症化予防プログラムに溶け込ませるような形で、岐阜県版のプログラム（実施の手引き）を具体的に示していけるとよい。
- ・腎疾患対策を進める上で、健診項目の整備は必須である。職域保健では、労働安全衛生法上の健診項目は法令遵守で実施されるが、法に基づかない項目に対する必要性の認識は低い。保険者協議会を通じて必要性を周知するほか、特定健診からの働きかけだけでなく、透析を一人持つと、事業主、保険者の負担が増えるなどの危機感を持たせる働きかけも必要。

② 診療水準の向上について

- ・連携パスの目的は、専門医とかかりつけ医を循環することであり、その仕組みづくりが必要。
- ・疾患により連携パスを作成するのではなく、統一したものを考えられるとよい。糖尿病連携手帳は日本糖尿病学会が発行しており、持続可能性があり、内容も腎臓病の要素が含まれている。岐阜県では当協議会で、慢性腎臓病患者でも使える工夫を検討し、簡便にいいものを示していけるとよい。
- ・過去に岐阜県CKD医療連携マニュアルを作成したが、その内容を見直しができるとうよい。CKDの悪化に促進的に働く要因、進行を遅らせる要因、合併する疾患などの記載を加えて整理ができるとうよい。
- ・かかりつけ医が、専門医への紹介基準に該当する患者を漏れなく見つける仕組みを考えていけるとよい。例えば、紹介基準を満たした場合に電子カルテ上や検査レポート用紙上にフラグやショートコメントがつくようなシステムを検査機関と共同で開発するなど。
- ・構築までには時間を要するが、かかりつけ医や地域からの相談事例に対して、健診経過や診療経過を確認し、協議会名で対応策や治療方針案を提案していけるような協議会を設置していけるとよい。

(2) 次年度の事業計画案について

案1～4についての承認